



とり せいたい えが にほんがか 鳥の生態を描いた日本画家





つちおか しゅんこう 土岡 春郊


生没年：1891年(明治24)～1959年(昭和34)

 とり せいたい かんさつ かちょうが か にほんがか
鳥の生態をくわしく観察して花鳥画※を描いた日本画家
で、「鳥の春郊」と呼ばれました。

 たけふちゅうがっこう たけふこうとうがっこう ざいがくちゅう とり かんさつ
武生中学校(武生高等学校)在学中から鳥の観察とスケッ
チに熱中し、絵の才能が認められました。

 みずか おお とり しゅう せいたい かんさつ せいち
自ら多くの鳥を飼育し、その生態観察をもとに精緻な
鳥の絵を描きました。

 ねん しょうわ ねん しゅつぱん ちようらい
1927年(昭和2)から11年あまりかけて出版された『鳥類
写生図譜』は、鳥の細部の形態や色彩が忠実に表現され、
とうじ かつきてき ちようらいがしゅう
当時としては画期的な鳥類画集とされました。

 ねん しょうわ せんさい のが とうきょう ふくい もど
1945年(昭和20)には戦災を逃れて東京から福井に戻り、
のちにふくいだいがく こうし にほんやちよう かい ふくいけんしぶ こ
のちに福井大学の講師や日本野鳥の会福井県支部の顧
もん つと
問などを務めました。

※花鳥画…日本画の画題の一つで、花や鳥を主体に描いたもの。